

### (3) 学力向上の取り組み

本校の課題としては、学力が二極化しており、中位と低位の児童の学力が伸び悩んでいる・受け身が当たり前になっている児童が多い・言われたことは一生懸命取り組めるが、決められたこと以上はしてはいけないと思込んでいる児童が多いということが挙げられている。このことから、生活科・総合的な学習を通して、児童の主体性を伸ばす授業、児童が追究し、考える力をはぐくむ授業の実践をしてきた。まず、授業の発想・構想の段階で児童も教師も「たのしくなりそう!」「『!』からやってみよう!」「『?』から解決したい!」と感じる授業計画の立案をした。その際に、子供の思い・教師の願い・教材観を大切にしたい。単元構想シートを活用し、子供の思いと教師の願いを記入し、材のウェビングを行い可能性が広いものを精選し選択するようにした。さらに、全体のストーリーを学年ごとにラフスケッチとして描き、生活科においては①願いや思いをもつ→②活動・行為する→③感じる・考える→④まとめる・伝え合う、総合的な学習の時間においては①課題設定→②情報収集→③整理・分析→④まとめ・表現というスパイラルを基に授業の流れが円滑に進むか、小単元のつなぎ目が右肩上がりに結び付いているかを検討しながら進めた。また、小単元の計画を立てる中で、1時間1時間が子供たちにとって達成感や充実感を感じられる授業を展開するようにした。さらに、授業の中で児童が追究したくなる仕掛けと、追究の奨励及び集団で学び合う中で個性を磨き、思考を深め、学習方略・技能を習得させることを目指しながら日々の実践として形作っていった。子供たちは生活科・総合的な学習の時間のみならず、他教科で学習してきた既習事項も活用・発揮しながら双方向に授業をつくるよさや友達と意見を出し合って練り合うよさを感じ取っていたように思う。

